

第10次上川町総合計画策定委員会（第2回）

日時：平成29年11月8日（水）18：30～20：00

場所：上川町役場 大会議室

議事抄録（発言順）

(1)まちづくり目標（基本計画）素案について

1 地域の特徴を生かした活力あるまちづくり

（事務局） 資料説明

（委員） p 47の基本的な考え方の2つ目の下から2行目について、「中小企業」を「小規模事業者」に訂正してほしい。また、主要施策の一番下の区分の2つ目について、「基礎的経営指導」は小規模企業振興基本法の改正で、基礎的なことは終わりにして「伴走型支援」の強化をすることとなった。

（事務局） 修正させていただきたい。

（委員） p 39の新産業の創出で、「白水沢の地熱を利用した発電所の建設なども計画されています」とあるが、この10年間で事業化になると思うので、もう少し具体的に書いてもらえれば、新しい事業のPRになるので検討してほしい。

（事務局） 白水沢については、事業者の丸紅が一時的に止まっていることもあって、書ける範囲を検討して周知したい。

（委員） p 36の「北の山岳リゾート」、p 39の「大雪山大学」について、事業が始まる時点では町民に周知されていたのか。

（事務局） 「北の山岳リゾート」は、地方創生事業の一環として平成28年に上川町タウンプロモーション戦略プランとして策定した。その中で今後、質の高い滞在型観光を実現するために、「北の山岳リゾート」として進めていこうということになり、これから取り組んでいこうという段階。着地型滞在観光というのが今のニーズなので、それに応えるためにDMO、総合的な観光まちづくりを今後、展開していく。「大雪山大学」はテレビ報道もされているが、いろいろな人材を発掘しながら、大雪山の麓にある上川町において地域の資源を活用しながら講座等を開催し、町の未来を担う人材の育成、町の活性化につなげていこうというものでイベント等も開催している。8/11に層雲峡黒岳、ロープウェイのところで入学式を行い、それについてはチラシ等で周知をしながらやっている。上川に酒蔵ができたが、そことも協力を得ながら、日本酒と上川町の観光振興についてみなさんと

集い、まちづくりを進めていこうということでチラシ、パンフレットなどは配布している。

(委員) 最初の大雪山大学のチラシは見た感じは素敵だが、趣旨がどれだけ伝わったかは疑問に思った。できればそういう事業はまず町民に広報などを使って周知してほしい。町外の人参加して上川町の役割をしっかりとするのも大事だが、町の人が置き去りにならないか。

(事務局) その通りで町民参加が基本姿勢だと思う。早い段階で周知をすることで進めていきたい。

(委員) p 4 1 の観光業の振興の基本的な考え方で、この項目に加え観光消費額という考え方を取り入れてほしい。今、特に注目されているインバウンド、国が 2020 年までに 4,000 万人という目標を掲げている。これに加え今年から観光消費額 8 兆円という目標が合わせて掲げられた。1 人あたり 20 万円をかける形になる。観光を通じた消費額のアップを達成していく考え方を盛り込んでほしい。そうすれば町全体が経済的に潤い活力も増す。

(事務局) 重要だと思うので修正して盛り込んでいきたい。

(委員) p 4 0 の旅行業の創出について、業者はどのように選定するのか。

(事務局) DMO という形で今の観光ニーズに応えるべく商業、農業も含めた産業間の連携による総合的な観光地づくりを進めている。その中で着地型の商品開発も必要で、エージェントを経験した人の雇用を進める。また、DMO で商品をつくっていこうという考え方で進めている。

(委員) 旭ヶ丘は 4 年くらいやっていて反省点はあると思うが、町民、ボランティアの方との意見交換の場も考えてほしい。

(事務局) 意見として受け止める。

2 一人ひとりが安心して健やかに暮らせるまちづくり

(事務局) 資料説明

(委員) p 5 7 で幼児センター建設事業があるが、どういったことを目的としたものか。

(事務局) 今の保育所は今年の 4 月の段階で 47 名であるが、のぞみ幼稚園 21 名、上川幼稚園 11 名含めて年々、児童が少なくなっている。保育所は昭和 54 年の建設で

かなり老朽化してきており、保育業務がうまくいかないこともでてくるということで幼児センターを建設する。保育所と幼稚園が2つで3つあるので、将来的な児童数を鑑みてどうするか検討に入る。

(委員) それは現在進行形の話なのか。

(事務局) 進み始めている段階で、おそらく福祉の施設が平成31年頃完成と思うので、その後、本格的に動き出すと思う。

(委員) 病院、医療に関わるいろいろな手当があるが、1年間、健康保険を使わなかった人に何かいいことはないのか。医療費は高いので何も使わない人に何かあってもいいのかなと思う。

(事務局) 保険制度は相互扶助事業でお互いに助け合うもの。いつ病気になるかわからないので、実際に病気になったときに補完する。その趣旨からいくと、使わなかったから恩恵を受けるのは個人的にどうかと思うが、気持ちは分かる。

(委員) 若い人は使わない人が多いが、70歳以上で健康で保険を使わないのはすごいことなので何かあってもいいのかなと思った。

(事務局) どうしたらいいかわからないが、頭に入れておきたい。

(委員) p71のボランティアについて、ボランティア活動は現状では1人がいくつもやっている。できれば町民1人、何か1つできるような仕組みになればいいと思う。病気でできないとかは仕方がないが、自分にあったボランティアの仕方はある。家の中での作業でもボランティアになることもある。日本では退職してからボランティア活動をする人が多いが、外国では幼い頃からボランティア活動をしている。上川町でも小学生、中学生のボランティア活動が増えて今の若い子たちは体験として培われているが、30～50代あたりの人はぽっかり抜けていると思う。70代以上で家にこもっている方も何らかで社会に参加できたらいいと思う。

(事務局) 町としても地域福祉ということで、みんなで支え合うまちづくりを考えていかないとならない。日本全国で高齢化が進行するので地道に考えていかなければならない。今年から生活支援コーディネーターが3名入っている。役場に1名と社会福祉協議会に2名。まだ始まったばかりで各地域に学習会という形で入っていきたいと考えている。

(委員) ボランティアというのはこういうものだという事を知ってもらえたら広がっていくと思う。

3 豊かな文化と次世代の人材を育むまちづくり

(事務局)

資料説明

(委員)

p 7 5 (1) の4つ目、「特別支援教室を推進が求められています。」は、「特別支援教室の推進が求められています。」の間違い。その2つ下で、「いじめや不登校が中学1年で急増するいわゆる「中1ギャップ」など1つの学校だけでは解決できない課題が増えてきています。」は、意味が分からない。中学1年に進級して、学習の進度が速いとか学力不振とかそういう生徒は確かにいるし、それが原因で学校に行きずらくなる、不登校傾向を示す生徒はいるが、一概にいじめや不登校が中1で急増するということの中1ギャップという表現で認めていいのかということと、1つの学校だけでは解決できないというのはどういうことか。それから、基本的な考え方の3つ目で教育加配制度は、具体的には本町で独自に配置している臨時教員あるいは支援を指すものなのか、国から予算措置される加配教育、指導区分加配とか生徒指導加配とか、今ならコミュニティスクール加配とかそういった加配を指しているのか、町の施策なので国からの加配は該当にならないのかと思うが、そうすると習熟度別や少人数指導などの支援はできないのではと思う。

(事務局)

「中1ギャップ」の文言については、指摘があったので調整、修正したい。「1つの学校だけでは解決できない課題が増えてきています」については、コミュニティスクールの平成30年の導入に向けて動いているが、そういった地域全体でいじめの問題に配慮できる部分を含めてこういう文言にした。「加配制度」については、町の臨時教諭の関係と国からの加配も含めた中で、こうした文言整理をした。支援についてはここには入らない。

(委員)

提案であるが、小中の連携とか地域の支援とかそうした文言を入れるとうまくまとまると思う。

(委員)

p 7 8の上川高等学校教育振興対策協議会はもう発足しているのか。

(事務局)

組織はある。

(委員)

高校配置計画という組織があって、その中で上川は定員割れしているので、高校配置について上川高校は要検討というところまできている。早急に話を進めた方がよい。

(事務局)

高校配置計画の管内の協議会には上川から町長と教育長も入っており、その中で意見反映は今までもしてきているし、今後も続けていきたい。

(委員)

p 8 7で、文化協会は今現在20サークル220名の会員である。10年前に遡ると

27 サークル 420 名で、7 サークル 200 人が減った。文化協会は元々高齢者が非常に多く高齢者が指導していたが、踊りや舞台発表で後継者がいなくなれば継続できない。特に舞台発表のサークルが減って危機感を抱いている。今後 10 年間でどうなるか想像もできない。教育委員会と連携を深めながら文化祭をやりたいと思う。

(事務局) 文化協会の実態について事務局として承知している。今回、文化祭も終わって反省会でそうした意見が出るのか、事務局としてしっかりと受け止め、支援をしていきたい。

(委員) p 8 6 で「放課後かみかわ教室の開催」は新事業か。

(事務局) 前回の長期計画にはないが、一昨年からやっている。学童保育センターの児童を対象にやっている。教育委員会の職員が出向いて学童保育の中でスポーツ、体力測定、工作などを月に 2、3 回程度、レクで行っている。

(委員) p 9 2 でスポーツ指導員というのは現状、どういう感じでやっているのか。仕事を持ってその後にやっているのか。仕事の中で指導員をやっているのか。

(事務局) 町内に 30 名いるが、各スポーツ団体から推薦を受けて教育委員会で委嘱している。一番の役割は各スポーツ教室の指導。やっている人は若い人から、指導者不足ということで高齢者もいる。20 代から 80 代の年齢構成となっている。各教室は、平日であれば 17 時以降、夏休み・冬休みの期間であれば日中ということで、人によっては仕事を休んでという指導員もいる。

(委員) 少年団に関わって、指導員の方の負担が大きいと思った。負担が少ない方法はないか、指導員の働き方を考えてもいいのではないか。学校の部活動でも教員の負担が大きいことが問題になっている。例えば陸上を指導する人がいれば、中学校の部活動もみられるし、少年団もみてもらえるとか、幅が広がると思う。または陸上競技の小中の授業でそういう方が指導するとか。スポーツ指導員の役割を、今までの固定概念と違う方向から考えてみてはどうか。

(事務局) 指導者は厳しい状況である。中学校の部活動については先生にかなりの負担がかかっているということで、全国的にもそうだが、部活動の外部指導者制度というのがあり、上川においては陸上、スキーのクロスカントリー、スケートなどは地域の人が外部指導をやっている。ただしそこも一部の部活動、少年団がかかわるものなので、今後については、先ほどの学校教育のところでコミュニティスクールというのがあって導入しようと思っているが、そこではスポーツ少年団、部活動の指導等を地域の支援でやっていこうというシステムが入っている。

- (委員) 地域の方も大事だが仕事と指導、2足の草鞋を履くのは大変だと思う。そういう方ばかりに負担がかかるのではなくて、スポーツ専門の職員がいてもいいのではないか。
- (委員) 私が回ってきた町の中で下川町では教育委員会の社会教育の職員にジャンプの指導者が2名いる。冬になると大会を回っていてほとんど事務所にいない。それが今、土屋ホームにいる伊藤有希のおとうさんともう1人。そうしたことをやっている町、そうした予算措置ができる町もある。
- (事務局) 即答はできないので意見を受け止めて検討したい。
- (委員) p 93でいろいろなスポーツの事業があることを今回初めて知った。朝野球もそうした事業とは知らなかった。今、森のガーデンでヨガを推奨している。もし町の特色にしようというのなら、町民全体にヨガが浸透するようにしていけたらいいと思う。森のガーデンでヨガのイベントをやっても町民がほとんど参加していない。観光地で町の特色として取り上げているものは、町と連動してほしい。
- (事務局) p 93のスポーツ関連の主要事業は、多くの事業名が記載されているが、野球連盟などの団体が主催している事業もある。それも含めて主要事業に記載した。ヨガについては旭ヶ丘の担当と連携しながら検討したい。
- (委員) ニュースポーツの促進とあるが、新しい発想のスポーツのことと思う。今、オリンピックの新しい競技になってきているのがエクストリームスポーツというジャンル。エクストリームスポーツに特化している町は日本全国どこにもない。北の山岳リゾートにも関わるが、山、旭ヶ丘、これだけのフィールドがあって、他の町でできないことで、上川でできることが沢山あると、上川に引っ越してきてからずっと思っている。勝手な想像だが、お父さんとお母さん、子どもがエクストリームスポーツに興じる、その間、おじいちゃん、おばあちゃんはヨガをやる。旭ヶ丘のガーデンは子どもたちが来ても面白くないという意見があった。誰か一人が楽しめるのではなくて、家族みんなが楽しめる町のつくり方、エクストリームスポーツに特化した町というのも面白いのではと思う。日本エクストリーム協会という協会があり、そういうものに力を入れてくれる場所・団体を探している。そこに掛け合うと協力はしてもらえる。そういった趣味を持った人は、どれだけ遠くてもどれだけお金をつぎ込んでも遊びにきてくれる。2、3日と滞在してもらおうと観光の活性化にもつながる。そういう考えの人がいることも知ってほしい。
- (事務局) 情報収集含めて相談に乗ってほしい。
- (委員) p 82のかみんぐホール図書室の「LED照明への交換修繕」について、どうい

うタイプのものを使うのか決まっているのか。

(事務局) 決まっていない。検討作業の段階。

(委員) L E Dは目に刺さるものなので、目にやさしいものを選んでほしい。

(2)その他

○上川町の「未来予想図」絵画展 【小学校6年生 作品 25 作品】 説明

・期間 11月14日(火)～21日(火)

・場所 かみんぐホール ロビー

以上